

3.9 研究推進部門

部門長 藤本昌彦

【部門概要】

(1) 研究活動等の総合的な支援及び成果の社会展開

研究推進部門（平成18年4月設置）は、NICT全体の研究支援を行う組織として、研究活動の周皮的・支援的な業務を集約して効率的に支援を実施している。また、当部門は、産学官連携及び国際連携の総合窓口として機能し、研究活動において産学官及び海外の研究機関と円滑な連携が実現できるように、調整、支援に努めている。さらに、NICTの研究成果が社会経済の発展や国際的競争力強化に役立つよう、知的財産のライセンスや標準化活動を通じて、産業界への技術移転を推進している。

(2) 研究推進部門のグループ構成

当部門の業務は次のグループ構成により実施している。

- ① 成果発展推進グループ：産学官連携窓口、共同研究や受託研究の窓口・とりまとめ、外部競争的資金の獲得支援、研究成果のとりまとめ、委託研究など
- ② 知財推進グループ：知財戦略、職務発明認定、特許出願、知財権獲得、技術移転、無線局・図書管理など
- ③ 国際推進グループ：国際戦略、研究開発の国際連携支援、海外研究機関との研究協力・研究者交流、海外情報収集、海外組織運営など
- ④ 標準化推進グループ：標準化活動の動向調査、標準化活動の支援、標準化活動の人材育成など

これら各グループでは各研究センター推進室とも連携した体制で、NICTが自ら行う研究開発や成果の社会展開の支援を行っている。

なお、海外組織として北米（ワシントン事務所）、欧州（パリ事務所）、東南アジア（バンコク郊外のアジア研究連携センター）に活動拠点を持ち、グローバルに活動するNICT全体の国際窓口として機能している。各拠点においてはそれぞれの地域の研究機関との連携や情報発信、調査などを行っている。また、海外研究拠点としてバンコク郊外にタイ自然言語ラボラトリーを、またシンガポールに無線通信ラボラトリーを持っており、これらは、それぞれ知識創成コミュニケーション研究センター及び新世代ワイヤレス研究センターの研究分野の中で、海外で実施することが有効なテーマについて研究を行っている。

【主な記事】

(1) 研究成果の積極的な論文発表の支援

各研究センターへ論文の積極的投稿の働きかけを行う等、NICT全体の取り組みを実施した結果、論文発信量は1,018報となり、年間論文発信量1,000報の目標を達成した。

(2) 社会に利用される研究成果

新世代ワイヤレス研究センターで研究されてきた「コグニティブ無線技術」は、技術移転案件として契約が締結され、この関係による知財収入は3千万円に達する大型案件となった。また、これまで維持・改修・提供してきたEDR電子化辞書全体について最後の改修を行いVer4.0のリリースと共に、EDR電子化辞書に対応した、日本語と中国語の対訳辞書を新たに追加した。

(3) 東南アジアとの研究交流のためのアジア情報通信技術フォーラム（AFICT）の開催

NICTが中心となってICT関連の研究開発から実用までの幅広い技術動向を紹介するとともに、産学官が一体的に東南アジア諸国との国際連携を推進することを目的として、AFICTを東南アジア3か国（タイ、シンガポール、ベトナム）で開催した。特にベトナムにおけるAFICTでは、日本から産学官の関係者77名が参加し、研究交流及び成果展開という観点から活発な情報交流が行われた。

(4) 毎年伸び続ける標準化寄与文書件数

国際標準化会議への標準化寄与文書提出件数は、今中期計画期間を通して増加しており、平成22年度も前年を上回り、IEEEやITUでの活動を中心に寄与文書の提出数が353件となった。また、これらの標準化活動を通して、ITU-T勧告F.745、H.625（ネットワーク型音声翻訳システム関連技術）等の標準が成立した。